



やよい図書館



いつもやよい図書館をご利用いただきましてありがとうございます。

一年で一番寒さの厳しい時季になりました。冬のオリンピックがいよいよ開幕し、観戦が楽しみです。寒い寒いと言いながらも、他にもこの季節ならではのいろいろな楽しみ方があります。私は続々と登場してくる柑橘類が、明るい春を感じさせてくれて大好きです。いよかん、はっさく、ポンカン、デコポン。文旦、はるか、はるみ、せとか。まだまだたくさんあるみたいです。なるべく夏近くまで柑橘類を食べたいので、お店で見る以外にも旬のカレンダーを調べたりします。春を待ちわびるこの季節、みなさんの楽しみに読書もぜひ加えてください。

俺の一冊・私の一冊

中央本町地域学習センター・やよい図書館で働くスタッフが、それぞれ自信を持っておすすめする1冊をご紹介します。みなさん、ぜひ読んでみてください！！

館長の一冊

『目でみることば』 おかべたかし・文/ 山出高士・写真 東京書籍

「瓜二つ」とはそっくりな様子を表すことばですが、どうして「瓜」？「しのぎを削る」の「しのぎ」ってなんだろう？ そんな疑問に写真で答えてくれるのがこの本です。日常で使う40のことばを一目で解説してしまいます。百聞は一見にしかず。あるいは一目瞭然、とでも申しましょうか。「語源は昔の人の生活を想像するヒントだ」そうで、それぞれの語源も意外なものばかり。ちなみに撮りたくても撮れなかったことばが「目白押し」と「瀬戸際」だそうです。

俺の一冊 (村田)

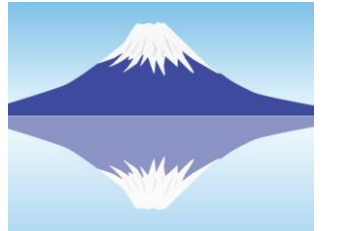
『おしっこ消防隊』 こみ まさやす・原案/ 中村美佐子・文、絵 ひかりのくに
幼稚園の砂場で仲良し3人組が遊んでいる時、1人の男の子がトイレに行かず、我慢しておしっこを漏らしてしまいます。ある日サッカー遊びで、また我慢していると、先生が「トイレが火事だ〜。」と消防車を模した赤いダンボール箱に入って走ってきました。「これで火事を消しに行こう」「ほうすい、ようい！・・・」見事に、トイレでおしっこができました。トイレトレーニング真っ最中のお子さまにお勧め！ 男の子向けかもしれませんが、我が家の女兒も練習開始！

私の一冊 (清水)

『はてしない物語』 ミヒヤエル・エンデ/著 岩波書店

映画「ネバーエンディング・ストーリー」(日本公開1985年)をご存知の方は多いと思いますが、その原作が本書。ミヒヤエル・エンデは『モモ』などでも有名なドイツの作家です。国語の教科書に載っていた『モモ』がとても面白かったので、エンデの別の本を図書館で探した私は、ひときわ美しい装丁にも惹かれ、この本を手に取りました。長編ですっぱり重い本…。パラパラめくるとなぜか違う色で書き分けられた文字と、不思議な挿絵…。なんだか魔法にかかったように、読んでみたくてたまらなくなっていました。そして本の中には、はてしないファンタジーの世界が広がっていました…。大人の方も冬籠りの読書にぜひ！

読書の窓 富士山



2月23日は富士山の日です。富士山がまたがる静岡県、山梨県は両県ともに富士山の日を制定し、イベントを行っています。

昨年、世界文化遺産登録され、富士山ブームはますます盛り上がっています。古代より信仰の対象として日本人に愛されてきた富士山ですが、いまや世界からも注目をあびています。今回は富士山の登場する小説だけでなく、富士山が日本人に愛され続けてきた秘密がわかる本も紹介します。

『風の姿』

常盤新平/著 講談社

ある日京子は静岡県の山のふもとでぼろぼろの姿で発見されます。引きこもりがちだった京子はわさび畑農家の夫婦と心を通わせ、東京-静岡間を往復するように。京子が明るくなっていくと同時に、京子の家族も新しい姿へと変わっていきます。富士山の近くで起きる家族の再生物語です。

『東海道五拾三次 広重画』

歌川広重/画 集英社

言わずと知れた歌川広重の名画集です。かつては江戸から京都まで続いていた東海道の風景が収められています。晴れた冬の日、ふと遠くを眺めるとうっすら富士山が見えたという経験は、多くの人が経験しているのでは？ 広重もきっと日常風景に馴染んだ富士山を愛していたのではないのでしょうか。

『あなたの知らない静岡県の歴史』

山本博文/監修 洋泉社

静岡県の様々な歴史の謎が解説されている一冊です。例えば、「全国に広がる浅間神社は富士山信仰から生まれた？」など、富士山に関する歴史も紹介されています。富士山だけでなく、静岡県の歴史を知れば、富士登山も静岡の観光も以前よりもぐっと面白くなるのではないのでしょうか。

『ふじさんとおひさま』

谷川俊太郎/詩 童話屋

谷川俊太郎さんの子ども向けの詩集です。題名の「ふじさんとおひさま」のほかにも「なわとび」、「ともだち」など身近なものを題材としています。とてもリズムカルで読んでみると心が温かくなります。色鮮やかな佐野洋子さんの挿し絵もあわせて楽しんでいただきたい一冊です。

『日本人は、なぜ富士山が好きか』

竹谷靱負/著 祥伝社

奈良・平安時代から始まり現代に至るまで、富士山は様々な歌や絵画、随筆にその姿を現します。それらをひとつひとつ丁寧に取り上げ、富士山が日本人にとって特別な山であることを示したのがこの本です。これを読めば、富士山がなぜ「文化遺産」に認定されたのかがよくわかりますよ。

☆読書の小窓☆

『ポーの一族』 萩尾望都

いまさら私がここで紹介せずとも、多くの萩尾望都ファン、少女漫画ファンが読んでくれるはず。決して読後感がいいものではなく、私はいつも最終話を読んだあとに「ああ〜！」と悶えます。時間を超えて生き続ける吸血鬼の少年たちのおはなし。とてもその魅力を伝えきれないので、ぜひ読んでください！！